

「&SHIRAOI2021」



ウポポイ開業後の白老を考える



町主催のイベント「&SHIRAOI2021」が1月18日夜、しらおい創造空間「蔵」で開催され、戸田安彦白老町長、国立アイヌ民族博物館の八幡巴絵学芸主査、白老町商工会の西尾圭史青年部長などが、ウポポイ開業を契機とした白老町のこれからについてトークセッションを展開。また、さまざまなメディアで活躍し、発信力のある中国出身のタレントで女優の、ロン・モンロウ（龍夢柔）さんがウポポイ、白老を訪れた感想を紹介したり、白老アイヌ協会による古式舞踊が披露されるなど、白老の魅力発信に努めました。

▼これからが勝負

開業で特に白老駅舎周辺が大きく変わりました。白老のアイヌ文化の発信から、ウポポイ開業で全国のアイヌ文化の発信地となりましたが、コロナ禍で本領を十分発揮できていないのが現状だと思っています。

とはいえ、町民に足を運んでもらえるようにした一日無料券や年間パスポートなどで4人に1人ほどは訪問しているようです。コロナ禍がある程度収まってからが勝負と考えています。それに備え、交流促進バスなども利用者の利便性向上を考えるなど、社台から虎杖浜までウポポイの経済波及効果を町全体で享受できるよう努めます。

また3年前から、白老を訪れ



コロナ禍でのウポポイ開業の効果を見極め、「これからが勝負」とさまざまな取り組み検討を披露する戸田町長

た方をもてなすガイドの育成にも取り組んでいます。ガイドを活用してまちの魅力伝えていきたい。しかし、SNSで話題になるような町内のお店が人気のように、町民の方にどんどん白老情報を発信していただきたいですね。胆振の中では広域観光としてウポポイを拠点に動いています。それをまち場にも来てもらうのが大きな課題。新たな観光モデル構築が必要だと思っています。まちづくりの夢としては、ウポポイは日本の少数民族の文化復興・発展のナショナルセンターとして開設されました。やって来る多くの外国人を町民とともに受け入れることができればいいなと思っています。

「コロナ禍をポジティブに捉え、道内など地元の人にはっぱい紹介を」と語る八幡学芸主査

▼アイヌ文化の理解深まる

旧民博で働いていましたが、ウポポイで変わったな、と思ったのはまず、これまでは韓国や中国など海外の方も含め団体でしたが、今は個人客が多くなってきました。質問もハイレベルで（笑）、事前の勉強もし、長い滞在時間でより深くアイヌ文化を理解したいと思っています。いろいろな気がします。私たちがいろいろな方と積極的にお話したい、と思っていました。コロナ禍でままならずです。

